

大地を見る目を磨こう!

～めざせ! 筑波山地域ジオパーク～



大地のこを楽しみながら学べる「ジオパーク」。「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。現在つくば市は、ジオパークの取り組みを地域活性化につなげるため、筑波山周辺の5市(石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市)とともに、平成28年度の日本ジオパーク認定を目指して活動しています。

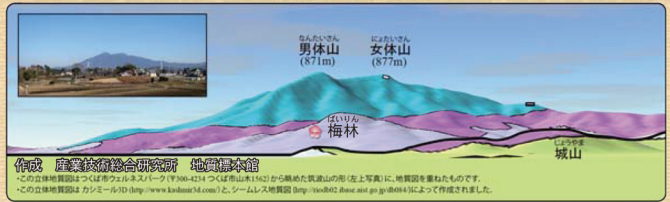
申・問 ジオパーク推進室 ④「筑波山地域ジオパーク構想」で検索

筑波山地域のジオ話 ～筑波山梅林と石～

筑波山梅林は、「筑波石」といわれる大きな石と紅白の梅とのコントラストが見事で今では非常に有名ですが、戦前までは松林が広がっていました。約40年前に松林が開拓され、梅の実の生産のために梅が植えられましたが、斜面での管理が難しかったこともあり、梅林は荒れ果てて衰弱していました。平成12年の梅林再生プロジェクトによって少しずつ回復し、今では見事な梅の花を咲かせるようになりました。



梅林で見られる斑れい岩



作成 産業技術総合研究所 地質情報館
*この立体地形図はつくば市ファイルサーバー(F:\04-218\つくば山地区162)から読めた筑波山の形(左上写真)に、地形図を重ねたものです。
*この立体地形図は カンジー小1D (<http://www.kobunsi1.com/>) と、シムレス地形図 (<http://svd042.dnsi.ac.jp/gis04/42/>) によって作成されました。

筑波山頂上付近は、硬く風化しにくい斑れい岩から成ります。梅林がある中腹付近に見られる花こう岩は、マシ化(石に水や空気が入り砂のように崩れること)しやすく、風化して堆積物となり、なだらかな斜面を形成しました。

梅林にある黒い巨石は斑れい岩で、その姿の見事さから庭石にも多く使われています。わざわざ庭石として梅林に運んだのではないかと思う方もいますが、実は山頂付近の斑れい岩が割れて、大昔に土石流とともに流れしてきた石なのです。梅林では、山頂付近から流れしてきた斑れい岩の巨石や花こう岩が風化した様子を間近で観察することができます。

このように、石の成り立ちを知ると筑波山梅林を見る目が変わってきませんか? 今年の春は、関東平野を一望しながら、梅林と石のコントラストを楽しんでみてはいかがでしょうか。



▼ジオキッズセミナーの様子

筑波山地域のジオを気軽に学べるサイエンスカフェや、子ども向けのイベントを定期的に開催しています!

梅林ミニジオツアー参加者募集!

筑波山梅林を歩きながら、ジオガイドから梅林の地質や植生の成り立ちについて学ぶツアーです。ジオ初心者も大歓迎です! 4回のうち、3月18日(金)13:00の回のみ、主に英語による説明で実施します。外国人の方、外国人と交流したい方は、ぜひ応募してください。

期日 3月18日(金)・19日(土) ※小雨決行
時間 ▷10:00 ~ 11:30 ▷13:00 ~ 14:30



お休み処

集合場所 筑波山梅林内お休み処

定員 各回先着15人

参加費 100円(保険代など)

申込方法 希望日時、住所、氏名(ふりがな)、生年月日、日中連絡の取れる☑を記入し、3月10日(木)までにFAX、Eメール、または電話(日本語のみ対応可)で

申・問 筑波山地域ジオパーク推進協議会事務局(ジオパーク推進室内) ☎029(868)7640 ☉geo2988info.tsukuba.ibaraki.jp

